

クエン酸や酒石酸など化学工業一筋に 食品・医薬などの産業を原料から支える

クエン酸や酒石酸、乳酸原料など、創業以来、さまざまな産業に向けて化学原料を供給してきた昭和化工株式会社。
同社の代表取締役社長 小椋浩之介氏にお話をうかがった。

国内トップシェアを誇りに エコロジー対策にも注力

大正7年創業という長い歴史の中で、化学工業一筋にさまざまな産業に向けてその素材となる原料を供給し、工業界の発展を支えてきたのが昭和化工株式会社だ。機能性材料 化成品 染料 有機酸・無機薬品など化学薬品の中間体メーカーとして、開発から販売までを手がけている。

例えば食品材料などに幅広く利用されているクエン酸や酒石酸は国内メーカーとしてトップクラスのシェアを誇る。その用途は清涼飲料水や菓子から調味料、パン、ラーメンなど誰もが口にしていく多くの食品に利用されている。また、医薬品や工業製品向けにも使われる、欠かすことのできない化学原料だ。

「クエン酸は、鹿児島産のサツマイモ澱粉粕を主原料として、固形発酵法によりクエン酸を製造します。酒石酸はワインなどの製造工程で発生するブドウの絞りかすを海外からも集めて作られています」(小椋氏)

消費者の手に渡る商品に昭和化工という社名は表記されないものの、同社の最終的な取引先となるメーカーには、名だたる企業が数多く並んでいるのだ。

同社ではこれらの製造工程で生じる残渣をほぼ使い切るというエコロジー対策も進んでいる。



昭和化工株式会社代表取締役社長 小椋浩之介氏

「当社のバイオ技術を生かし、エリンギやハナビラタケといったキノコの栽培に利用したり、飼料として活用するなど、原料をムダにしない努力を続けています」(小椋氏)

業界を牽引するリーディングカンパニーとして、高品質な原料を産業界に供給するとともに、その有効利用にも注力するのが同社の姿勢だ。

高品質へのこだわりで 海外でもシェア向上を目指す

化学原料を取り巻く業界にも、やはり低価格な海外産の国内流入が見られるという。その中で同社が長年にわたって培ってきた高品質へのこだわりは、多くの納入先企業から信頼されていることを実証する高いシェアが示している。同社では研究開発、品質管理に優秀な人材を配し、産・官・学の連係や将来に向けた製品開発にも力を入れている。

「特に食品や医薬品などの分野では、健康への影響を考えた原料が選択されています。品質で選ばれるというのは国内メーカーである当社の誇りであり、今後もさらに品質の向上に務めていく方針です」(小椋氏)

国内だけでなく、海外からも同社の高品質な製品に期待が寄せられている。

同社は長い社業で培われた業績を生かしながら、いつまでもチャレンジ精神を忘れずに、常に次代を見据え、新しいものに取り組んでいく方針だ。

昭和化工株式会社

[本社] 〒564-0054
大阪府吹田市芳野町18-23
[電話] 06-6384-1501
<http://www.showakako.co.jp>

●設立:1918年 ●代表者:代表取締役社長 小椋浩之介 ●従業員数:103名 ●事業内容:有機酸・無機薬品・化成品・染料・機能性材料・局方品・試薬・バイオ製品等の開発、製造など。

Turning Point
賢者の選択
A Shrewd Man's Choice

全ての選択には、
フィクションに勝るドラマがある。

<http://tp-kenja.jp/>

全国放送

BS-TBS

毎週日曜
午前9:30-10:24

日経CNBC

毎週日曜
昼12:00-12:54

兵庫大阪

SUN-TV

毎週月曜
夜10:00-10:54